

淡路宗務支所報 「海響」

[第20号]

令和2年(2020)3月15日

題字・弘法大師筆



発行所 高野山真言宗淡路宗務支所
発行人 支所長 鈴木 暲 導
兵庫県洲本市五色町都志1344
多聞寺中 TEL0799(33)0736

海響

お大師さまのことば
茶湯一瓊
逍遙また足んぬ
一杯の茶と散歩が心を癒し満たしてくれる。
(性霊集三)



朝、母が本堂にお供えしたご飯とお茶を、夕に姉と一緒にさげるのが幼い頃の私の日課でした。姉とどちらがたくさん片付けられるか競争していたのは懐かしい思い出です。時が経ち、その役目は私であり妻が朝のお勤めの前にお供えし夕刻になるとおさげいたします。お茶を日本に伝えたのは宗祖弘法大師とも最澄とも言われていますが弘法大師は中国(唐)と日本の風習の違いの中で喫茶をあげています。いずれにしても平安時代から少しずつ始まった喫茶の風習を取り入れて仏様にもお供えするようになりました。

侘茶を大成した千利休の言葉とされるものの中に「湯を沸かし茶をたてて仏に供え、人にも施し我も飲み、花をたて香をたき、皆仏祖の行いの後を学ぶなり」とあります。仏様にお供えし、そして自分たちもいただき仏とともに日々を暮らしていくことの大切さの表れだと思っています。

茶の効能は様々ありますが、鎌倉時代の禅僧栄西が將軍源実朝に諸病の治療に役立つと献上したり、戦国時代に武将たちがごぞつて茶室に籠り喫茶をし精神を落ち着かせたりしました。

現在では様々な効果が実証され、コレステロールの低下・体脂肪低下・がん予防・血圧や血糖上昇抑制・二日酔い防止・リラッククス作用・肌の老化防止等々まだまだあげればきりがありません。

また形は色々ですが茶を飲む風習は世界中であり紅茶やウーロン茶は製法の違いだけで同じお茶の葉であります。

そんな万能薬であるお茶を自分達だけでなく自分達と地続きであるご先祖様にもお供えをして共に少しでもよき日を過ごす事が必要であると思えます。

近年はグローバルイズムが蔓延し共同体が破壊され家族ですら共に過ごすということが疎かになっています。

喫茶去という言葉があります。仏の悟りとは何か?と問い争う二人に師匠が言った言葉ですが、難しい事は抜きにしてまずはお茶のみましよう。という意味です。

我々は温かい物が胃に入ると心が落ち着きます。まずは、ご先祖を含めた家族から共にお茶を飲んでみませんか。

智積寺 寺内 宥 孝 合 掌

大師号下賜1100年 ～空海が弘法大師空海になられて1100年～

「下賜」は「かし」と読み、天皇・皇族により何かを与えられる場合のみに使われます。延喜21(921)年10月27日、東寺長者観賢の奏上により、醍醐天皇から「弘法大師」の諡号が贈られました。2020年は下賜1100年となります。高野山では、『大師号下賜1100年記念大法会』を10月17日～27日の間、日本全国で9つある地域伝道団各団主催の法要が執行されます。第六地域伝道団(淡路・兵庫・播磨・但馬支所)では、10月24日(土)に壇上伽藍にて法要を行います。

「まわり弁天さん」の安座

まわり弁天さんの奉迎寺院が無い場合の巡遷の形態は「安座」です。

基本的に、安座は一年間まわり弁天さんを肅々としてお祀りしていくものですので、正式な奉迎と異なり大祭はありません。しかし、大祭に当たる日には弁天さんの開帳を行い、午前11時から皆さまとともに勤行をいたします。また、柴灯護摩や毎月7日の月並祭もとり行います。

190年ぶりのお迎えで 盛り上がる境内



安座形式の正式第1号として令和になって第1号のお迎え寺院が淡路市高山の「勝樂寺」さんです。

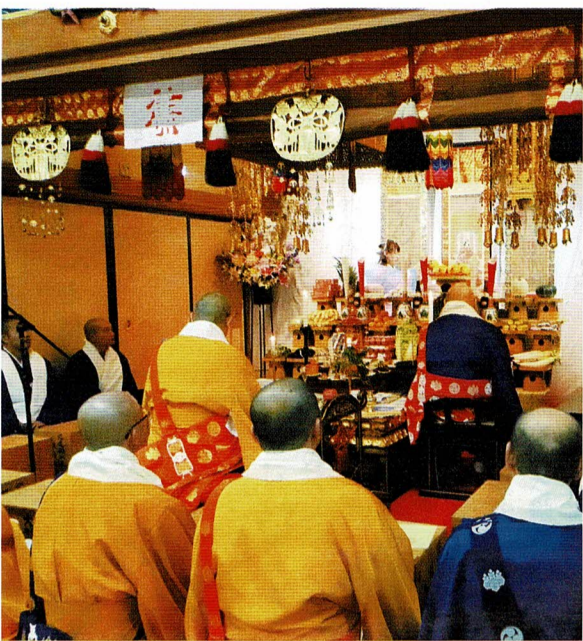
一昨年、この「安座形態」が支所代議員会で議決され、阿那賀 春日寺にて一年間試験的にお迎えされ祭祀されました。その間に、不備な点の改良、祭祀道具の作成を行い準備万端整いました。本年、奉迎希望寺院がありませんでしたので、この度より新たに誕生した11月7日の「秋季祭」に併せて「託宣の儀式」を行いました。

手を上げる寺院が無いのであれば弁天さまに行き先を決めていただく。その儀式が「託宣の儀式」であります。今回、クイーン淡路(堀川瑞加さん)に弁財天さんとなつていただき、教区名を書いた紙を封印され尊天の御前

に祀られている七つの宝珠の内から一つを選び、弁天総長、代議員会議長に確認いただき次期安座の教区が第五教区とお告げをいただきました。そして、第五教区内で寺院を選定し、11月7日に勝樂寺が承認され契書授与式が行われました。

奉迎寺院があり「巡遷」していくのが本意ですが、「安座」が軌道にのれば淡路巡遷妙音弁財天が絶えることなく続いていくことが出来るものと思っております。まわり弁天さんの御威光高らかに、福徳円満のご利益を淡路各地よりたれ給わんことを祈念いたします。

合掌



令和2年4月18日(土)
淡路巡遷妙音弁財天(まわり弁天さん)
～春季祭 於 勝樂寺～
●午前11時より 大般若転読法会
●午後1時より 柴灯護摩を厳修致します。

教区編成について

- 平成29年10月1日教区再編成を行い、9つの教区(1・2・3・4・5甲・5乙・6・7・8)から1・2教区と5甲・5乙教区 それぞれが合併しました。(第二教区は欠番)
- 第一教区 (10ヶ寺)**
淡路市
潮音寺 勝福寺
法導寺 妙観寺
法輪寺 観音寺
生福寺 常隆寺
成楽寺 福満寺
 - 第二教区 (13ヶ寺)**
淡路市
多聞寺 萬福寺
引攝寺 地藏寺
薬師寺 圓城寺
八淨寺 八幡寺
西明寺 善福寺
圓満寺 長泉寺
広生寺
 - 第三教区 (17ヶ寺)**
南あわじ市
金剛寺 神本寺
榮福寺 威光寺
長福寺 賢光寺
常楽寺 安楽寺
實積寺 覺住寺
成相寺 聲明寺
願海寺 智積寺
片寺 妙雲寺
感應寺 寶光寺
 - 第四教区 (14ヶ寺)**
淡路市・洲本市の内
大照寺 松榮寺
光照寺 正法寺
常楽寺 蓮花寺
小川寺 心蓮寺
観音寺 寶生寺
普門寺 覺王寺
惠日寺 永樂寺
 - 第五教区 (20ヶ寺)**
淡路市・洲本市の内
安養寺 智禪寺
神宮寺 本福寺
勝樂寺 神泉寺
法華寺 長林寺
薬王寺 西泉寺
菅相寺 延長寺
西光寺 龍雲寺
浄土寺 龍寶寺
多聞寺 地藏寺
普門寺 福満寺
 - 第六教区 (15ヶ寺)**
洲本市・南あわじ市の内
千光寺 正遍寺
極樂寺 持明寺
堺寺 東光寺
明法寺 鈴聲寺
三寶院 善光寺
清淨寺 平等寺
十一面観音寺 観音寺
安住寺
 - 第七教区 (18ヶ寺)**
南あわじ市
神本寺
威光寺
賢光寺
安楽寺
覺住寺
聲明寺
智積寺
妙雲寺
寶光寺
 - 第八教区 (17ヶ寺)**
南あわじ市
真観寺 神宮寺
延命寺 地藏寺
神代寺 護國寺
神宮寺 妙観寺
長谷寺 薬王寺
慈眼寺 萬福寺
萬勝寺 法花寺
南邊寺 春日寺
釋迦寺

淡路島巡礼 お接待所ご案内

ぜひ皆様も、このおせつたい案内所の地図を参照に淡路島のお巡礼さんにかけてみませんか!

おせつたい

※お接待所に変更がある場合がございます。

| | |
|-------|--------|
| 5月12日 | 五色地区近辺 |
| 5月13日 | 三原地区近辺 |
| 5月14日 | 洲本地区近辺 |
| 5月14日 | 南淡地区近辺 |
| 5月14日 | 南淡地区近辺 |
| 5月13日 | 三原地区近辺 |
| 5月13日 | 洲本地区近辺 |

高野山真言宗金剛講淡路地方本部・教師会

ご詠歌 四季の集い

令和2年度

| | |
|----------------------------|----------------------|
| 春の集い | |
| 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止いたします。 | |
| 夏 | 7月17日(金) 午後7時～9時 |
| 場所 | 護國寺 南あわじ市 賀集八幡732 |
| 講師 | 國衛 延命寺 本間敬英 師 |
| 秋 | 10月17日(土) 午後7時～9時 |
| 場所 | 勝樂寺 淡路市 高山57 |
| 講師 | ハ木 尼ガ寺 稲井良俊 師 |
| 冬 | 1月17日(日) 午後7時～9時 |
| 場所 | 延命寺 南あわじ市 神代國衛1869-1 |
| 講師 | 江井 神宮寺 本多隼大 師 |

(敬称略)

奥之院御廟で鈴鉦の使用が許可される

いつの頃からか奥の院では鳴り物禁止とされてきました。理由は諸説あり定かではありません。淡路島では古くから春の風物詩として淡路島巡礼があり、お堂からお堂へと巡りご詠歌をお唱えする文化が育まれています。ご詠歌と鈴鉦は一体であり御廟前で鈴鉦が使えないことを不自然と感じていました。

令和元年より奥の院において鈴鉦が打つことができるこの勝縁に、高野山金剛講淡路地方本部で

静かなる心のふるえ

高野山金剛講 淡路地方本部 大照寺支部

北西 千 佰

令和元年よりや々と奥の院で1基のみ鈴鉦を打つことができるようになりました。

その記念の行事として、令和元年10月3日淡路地方本部 御詠歌講習有志により、奥の院灯籠堂で物故者御詠歌法要が執り行われ参加致しました。

灯籠堂での御詠歌法要は厳粛な読経と共に、お大師さまと物故者に対する尊敬の念が伝わった奉詠ではなかったかと思っております。

その後御廟の前へと移動しました。全員が揃うのを待っていますと、中年のご夫婦が私たちに「ここでも御詠歌されるのですか。ご詠歌ついで

この法会は、淡路地方本部が宗祖大師御入定千百年を迎えるに当たり設立されました。これまでに淡路地方本部発展のためにご尽力を賜った歴代物故者への報恩謝徳の誠を捧げるため、また、御詠歌をお唱えさせていた

僧正御導師として職衆寺院八名、講員20名が出陣参列し、法要を営み、大師御宝前に「高祖弘法大師一、二、三番」「追弔和讃」「法悦歓喜和讃」を奉詠しました。

鈴鉦を打ち、御詠歌を奉詠、荘厳な響きに包まれてお祈りする中、皆様は御詠歌の素晴らしさ、お大師さまの御教えを体感することが出来ました。

ありがとうございました。

高野の山の
岩かげに
おはしますなる

深く心に刻む法会となりました。

灯籠堂でもきつと奉詠を聞いていくくださったのだと思います。当初、灯籠堂では奉詠の予定はありませんでしたが、私は「そうだ。このようないい思いを持ってくださる方がいる限り、どこでも詠歌をしなければいけないんだ」との思いの中、高祖弘法大師第一番の御詠歌 金剛を参加講習員でお唱えしました。

その後ご夫婦がお帰りの時「有難い御詠歌を聴かせていただき、本当に

心に沁みてよかったです。ありがとうございます。」とお礼を言われました。

私はその数日後本山教師講習会に参加いたしました。その時、元高野山大学学長、高木神元先生の講義の中で「最大の布教活動は詠歌にある」とはつきりおっしゃっていました。

そうなんです。このように一人でも二人でも静かに心をふるわせてくださる方がいらつしやるのは、きつと私たちが鳴らす鈴鉦と詠歌の響に心を通わせてくださったからなのです。改めまして、多くの方々詠歌に触れていただき、大師信者としての正しい道を共に歩んでいけたらいいのになあとの思いを持たせていただけた淡路地方本部奥の院御詠歌法要でした。

淡路寺のご紹介

曼荼羅華の里

この度、淡路巡遊妙音弁財天安座寺院として弁天さまを迎えられたお寺です。ご紹介いたします。

宝林山 勝樂寺

淡路市高山乙五十七

淡路薬師霊場第三十三番

ご本尊 薬師如来

【御詠歌】

誓いのあれば 訪ねきて
名も高山の 瑠璃の御仏

約四百年前 頼幢上人により開創されました。この薬師如来に願を掛けると、婦人の乳がよく出るようになるといわれています。

毎月十七日には、薬師講が開かれ、お盆の十七日は特に「高山の十七夜」といわれ、戦前は浄瑠璃や盆踊りで賑わったといわれています。

境内には、五輪塔・一五五輪塔や力石があります。門前の桜は「長寿の桜」として有名です。



第5回 御詠歌・舞踊の発表会です。

淡路島奉詠舞大会開催される

9月1日(日) 淡路市地域総合福祉センターを会場に第5回淡路島奉詠舞大会を開催いたします。

金剛講員の皆さまの日頃の精進鍛錬されてき

た御詠歌、詠歌舞踊を180名が登壇し、ご披露していただきました。ご来場の皆様方からは温かい拍手が送られました。

この大会は、多くの皆様に御詠歌詠歌舞踊を見て、聴いて、体験し、興味を持っていただく大会でもあります。鈴鉦体験コーナーでは、初めての方も鈴を振って大変興味をもって下さいました。

第1回大会から同時開

催しております御詠歌の発祥とも云われる西国三十三所霊場のお砂踏み道場を開壇、多くの方々に淡路島に居ながら本西国観音霊場を巡拝していただきました。

また、寺族婦人会による華道高野山の生け花の展示で会場を彩っていた、心温まる喫茶のお接待もあり、ご来場の皆さまは大変喜ばれておりました。



第6回

淡路島奉詠舞大会

令和2年9月5日(土) 10時
淡路市地域総合福祉センター

教務課 自治布教団

真言法話の集い

生かせいのち公開講座
令和二年度

■時間 午後一時三十分より
■会場 洲本市文化体育館 二階会議室

●四月二十二日(水)
新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、中止いたします。

●五月二十日(水) 《第二五三回》
「掃除の功德」
志筑 八幡寺 野崎 康弘

●六月十七日(水) 《第二五四回》
「報恩の恩を返していきたいと思います」
北阿万 薬王寺 堀部 泰博

●七月十五日(水) 《第二五五回》
「仏法」
下坂 三寶院 樹下 俊澄

●九月十六日(水) 《第二五六回》
「父子日記」
瀬 長谷寺 長谷川 惇也

●十月十四日(水) 《第二五七回》
「仏様の御利益」
池ノ内 地藏寺 大木 裕文

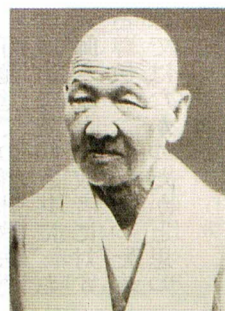
●十一月十八日(水) 《第二五八回》
「仏の智慧」
掃守 榮福寺 岡崎 哲秀

「仏教への招待 パート26」
先山 千光寺 岡本 宜照

(敬称略)

真言宗淡路名僧列伝

別所栄厳和尚



その三

別所栄厳(べっしよえいごん)和尚は、幕末から明治にかけて活躍した著名な真言僧です。文化十一年(1814)洲本市相川にて上撫(かみなで)長兵衛の次男として生まれました。幼少より仏心が芽生え、三才の頃風呂敷を袈裟がわり肩に掛け真言をお唱えしていたという逸話があります。

13才 文政九年(1826)洲本青蓮寺(現遍照院)にて得度。翌年四度加行成満。
15才 文政十一年(1828)高野山に登り、西南院にて伝法灌頂を受ける。以後高野山にて勉学に励む。
24才 天保九年(1838)一旦淡路に帰郷し、灘常楽寺の住職、後に洲本青蓮寺の住職となる。

49才 文久三年(1863)高野山真別所円通寺の住職となる。明治になり、苗字を付す必要から別所の姓を名のる。
やがて、明治維新となり廃仏毀釈の嵐が吹き、各寺院が困窮を極める中、戒律を基とした宗風の刷新と仏教の再興を図りま

した。栄厳和尚より戒を授かった僧は数千人、在家の信者は数万人に及んだと云われます。
特に、明治維新になり廃止となった真言宗最高の秘儀(後七日御修法)にちんちみしほの再興に努め、復興最初の御修法には自ら大阿闍梨を勤めました。その翌年(明治十七年)の弘法大師千五十年御遠忌には、報恩謝徳のためにお大師さまのみ教えをやさしく説いた「密宗安心教示章」を著しました。
明治十一年には勸修寺の門跡(住職の意)、明治十七年には仁和寺門跡に就任するなど、各方面の要職を務めました。
晩年、栄厳和尚が故郷に帰った際には、住民は浜辺から山麓の常楽寺までムシロを敷きつめ和尚を迎えたと云います。また郷里の相川では栄厳和尚が描かれた軸を拝して病人や憑き者を治したと云われております。
明治三十三年(1900)87才にて遷化。相川の常楽寺には少年時代の栄厳和尚の石像が、洲本の遍照院には頌徳碑と寿塔(長寿を祝う塔)が建てられております。一昨年(平成三十年)には「密宗安心教示章」の現代語訳が本山より著され、全国の末寺に配付されました。

兵庫ブロック寺族婦人研修会

平素は寺族婦人会の活動にご協力いただきありがとうございます。ようやく春めいてまいりました。昨年6月にはウエスティンホテルにおいて、兵庫ブロック研修会を開催致しました。一日目は神戸「原波古堂」会長様に表具についてのお話、軸の片付け方などの実技、続きまして神戸「高山草月堂」社長様には、文房四宝(紙・墨・筆・硯)のお話など、お寺にとつては特に大事なお話ばかり

でした。2日目は地元「吹き戻しの里」社長様のお話や、吹き戻しの作り方の実演をしていただきました。また、金剛講の講員様方の詠歌、舞踊、華道高野山の方々の花展も大変好評をいただきました。大変お世話になりました。大変お世話になりました。大変お世話になりました。

「われわれは、死後どこにいくのか」お大師さまの著書を手がかりに「帰真」をキーワードに詳しくお話をいただきました。
2日目は、日本各地災害物故者追善回向のために朝の勤行で始まりました。筆跡鑑定士 山上りるも先生に「筆跡はあなたを映し出す鏡です」との講演がありました。筆跡から性格(習慣・癖)を推定し他人を



ですが、これからもご協力の程、よろしくお願い申し上げます。 会長 南岳謹子

参与会だより

平成三十一年(令和元年度)兵庫ブロック枢議・参与・檀信徒大会が、10月10日・11日の両日、ホテル夢乃井を会場に播磨支所担当で開催され、県内各地より230名ほどが参集しました。
初日は、丹生司祥播磨支所長と高野山参与会事務局より「高野山枢議・参与会」についてお話をいただきました。

「いのち」の軽視ともいえる現象が激化している現在、今一度「死」を考え「いかに生きるべきか」「われわれはいかなる存在か」という人間観を真剣に考える時が来ているのではないかと問

まにお申し出ください。
会員になられますと高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジが授与されます。
《会員特典》
・高野山諸堂・霊宝館 内拝無料
・金剛峯寺参拝時 記念品贈呈
・月1回発行「月刊 高野山」が届きます。
【年会費】一万円



インスタ



ホームページ

華道高野山

お問い合わせ
淡路寺族婦人会
淡路市飯屋三(八)一 潮音寺内
TEL:0799-7474 潮音寺内
TEL:0799-7474 潮音寺内

淡路宗務支所小史

平成三十一年(令和元年)度
淡路宗務支所小史
(敬称略)

| | | |
|----|-----|-------|
| 慶賀 | 薬王寺 | 堀部 泰博 |
| | 神宮寺 | 大庭 慧子 |
| | | 堀部 泰博 |
| | | 大庭 慧子 |
| | | 堀部 泰博 |
| | | 大庭 慧子 |
| 哀悼 | | 堀部 泰博 |
| | | 大庭 慧子 |
| | | 堀部 泰博 |
| | | 大庭 慧子 |
| | | 堀部 泰博 |
| | | 大庭 慧子 |

檀信徒協議会理事

令和元年九月廿六日遷化
極楽寺先々代住職 内室 明美
令和元年十二月十六日遷化
三木 豊子

参与会淡路選出評議員

| | |
|-----|-------|
| 一教区 | 清水 邦樹 |
| 二教区 | 寺西 一夫 |
| 三教区 | 森 衣代 |
| 四教区 | 橋詰 計介 |
| 五教区 | 山崎 恭路 |
| 六教区 | 池尻 明人 |
| 七教区 | 坂本 勝利 |
| 八教区 | 松本 静雄 |
| 八教区 | 谷口 啓一 |
| 八教区 | 榎本 晃明 |
| 八教区 | 島田 貞洋 |

高野山真言宗青年教師会

理事 長尾 泰道
事務局 樹下 真快

高野山真言宗淡路宗務支所

洲本市五色町都志一三四四 多聞寺中
TEL:0799(三三)〇七三六
FAX:0799(三三)一四二九

淡路宗務支所 事務所

洲本市五色町鮎原下六九三、一 西泉寺中
TEL:0799(三三)〇六九三
FAX:0799(三三)一七〇〇

代議員会

| | | |
|-----|-----|-------|
| 議長 | 八教区 | 瀬尾 弘澄 |
| 副議長 | 三教区 | 竹本 仰雲 |
| | 一教区 | 南岳 泉雲 |
| | 四教区 | 林 真康 |
| | 五教区 | 山本 泰三 |
| | 六教区 | 坂惠 正隆 |
| | 七教区 | 林 清真 |
| | 八教区 | 本間 敬英 |
| 書記 | | 岡崎 哲英 |
| | | 南岳 真行 |

学 宗 会 議 員 頭

| |
|-------|
| 岡本 宜照 |
| 岡崎 正信 |

自治布教団团长

| |
|--------|
| 笹津 寛照 |
| 長谷川 惇也 |
| 堀部 俊晴 |
| 佐竹 清志 |
| 森 大誠 |
| 岡崎 哲秀 |
| 木野本 快真 |
| 南岳 謹子 |

高野山真言宗青年教師会

理事 長尾 泰道
事務局 樹下 真快